

オオルリ



支笏湖の国民休暇村の前庭は、バードウォッチングの名所であります。札幌市を囲む里山あたりでは、希にしかお目にかかれぬオオルリですが、ここでは5月頃ですとかなりの確率で出会うことができます。オオルリは名前のお通り雄は頭から背中側尾羽にいたる瑠璃色すなわち鮮やかな濃いブルーが美しい小鳥です。下面は腮(あご下)から喉を経て胸までは黒でその下は白のコンビなので紛れがありません。しかし、雌はセピア系の色で他のヒタキ達と区別しにくい地味な色であります。繁殖期の雄はさえずり上手で、よく透る澄んだ美しい声に聞き惚れてしまいます。スズメ目ヒタキ科で北海道には夏鳥として渡ってきます。年に一度はお目にかかりたくなる鳥なのであります。

2004年9月8日に襲来した18号台風は北海道の森林に大きな傷をつけました。とりわけ支笏湖東側千歳・苫小牧にかけての国有林に1954年の洞爺丸台風に次ぐ大災害をもたらしたのです。洞爺丸台風の被災森林の再生に50年をかけて育てた針葉樹人工造林地がそろそろ収穫という時期にまた一斉になぎ倒されました。広葉樹林の被害も大木が倒されたりしましたが、針葉樹は森林全部が将棋倒しの状態で惨憺たる有様でした。1961年に就職した製紙会社での仕事の一部が北海道各地から送られてくる洞爺丸台風による風倒木の工場土場検収だったのです。被災後7年も経過しているので、大木でも腐食がすすんだものが多かった記憶があります。45年も前のことですから、倒木処理に時間がかかったわけですが、現代では林業機械の発達で、支

笏湖国有林のように平坦地で大面積のまとまった一斉林では機械の効率もよく、2006年の夏時点ではほとんど片付けられたようです。

国有林はこれら被災地の復興を「国民参加の森づくり」と謳いまして、植苗から育林の手間のかかる仕事を殆ど予算措置なしで、民間のボランティア労働に依存することにしたわけです。国有財産ですから、国民参加で復興し、育てるのはやぶさかではありませんが、どのように展開するのか、興味がわきます。ここにセブン・イレブンが100haを受け持つことになりました。過去に2度の助成をいただいたので、ご恩返し的一端として呼びかけに応じて当協会もこれに参加することにしました。2006年9月1日に下見会がありました。特別にお願いされまして、普通は1ha、1000本ずつの区画ですが、1.5ha、1500本若の区画を振り当てられました。加えて、植樹指導員も手不足なので指導なしでお願いされました。当協会の実力と実績を評価されてのことと前向きに受け取りまして、承知したのであります。植栽畝は大型機械で完璧に地拵えされていますので、畑にトマトの苗を植えるような容易さに見えました。来春にはオオルリに遭える楽しみもあることだし、初めての試みの推移を見届けたいと思うのであります。

